

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3月 2日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	准教授	竹原 卓真
研 究 題 目	斜め顔の表情認知構造におけるフラクタル次元	
研 究 成 果 の 概 要	<p>3次元顔画像を用いて、顔の提示角度を5種類設定して実験を行なった。具体的な提示角度は、正面・向かって右45度、向かって左45度、上45度、下45度であった。従来と同様の表情認知実験を行なったところ、上45度条件のフラクタル次元のみが、他の条件と比較して有意に高くなった。人間の顔は上を向くとテクスチャと呼ばれる顔表面の陰影情報や凹凸情報が明確になり、それがフラクタル次元にも影響を及ぼしたと考えられる。どの条件においてもフラクタル次元が高い精度で算出されたことは大きな成果であり、今後の3次元顔を用いた表情認知研究に大きな前進をもたらしたことは間違いない。</p>	